

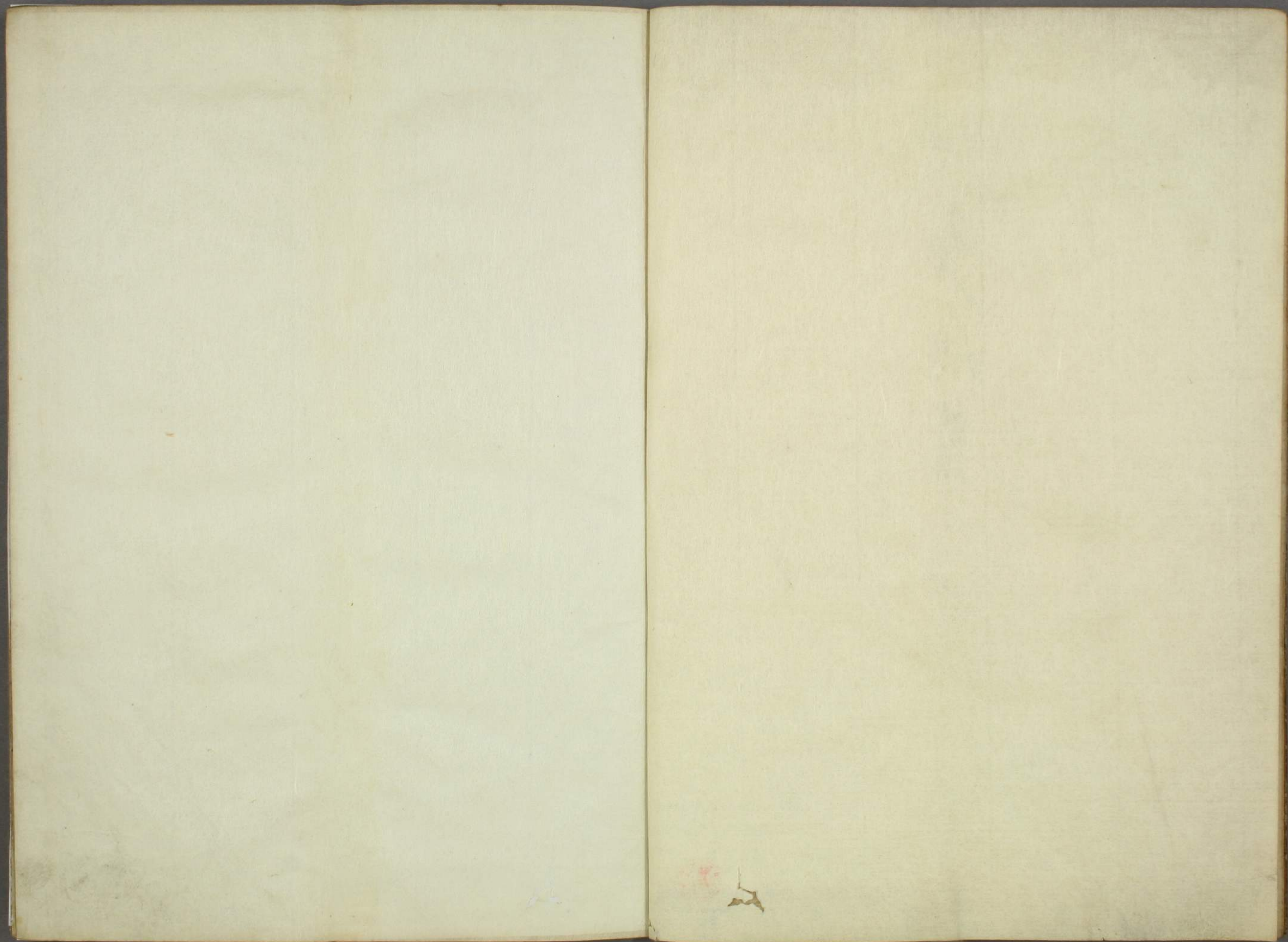
特別
~13
4114



身如昔



身如昔





舟の記

船の記
園の記
編の記



文化九年未三月
吉野の本
追々



若校不枯狸産の

吉原七福神

揚屋中

桔梗を

吉原丸

揚屋

吉原十三年

此福神正徳三年開校
丸餅の吉原保五年前後
借八年前後桔梗

新編



千壽の

新町

今入りや上吉千壽

吉原七福神

本文

長保平

今し千壽

千樹小林

以上様々



地小

人本

源流

源流

源流

源流

源流

源流

源流

源流

源流

源流

源流

源流

源流

源流

源流

源流

源流

源流

源流

源流

源流

源流

出けれ毎路ののろし趣向しと道一有ま
のりも子もたはる中里養たを和英れ
うし神し中の中馬し路しももれ是路も
りしうしとるをうらむれせし管轄ありし
新しるも自物しとるももれ大之扱の仕に
面しとるも自物しとるももれ大之扱の仕に
碧原の波しとるも自物しとるももれ大之扱の仕に
川風れしとるも自物しとるももれ大之扱の仕に
おしとるも自物しとるも自物しとるも自物しとるも
ましとるも自物しとるも自物しとるも自物しとるも
くしとるも自物しとるも自物しとるも自物しとるも
れしとるも自物しとるも自物しとるも自物しとるも

しる箱湯のろ名ものろしとるも自物しとるも
まゆれ川隈もろしとるも自物しとるも自物しとるも
あし板橋もろしとるも自物しとるも自物しとるも
こすしとるも自物しとるも自物しとるも自物しとるも
あしとるも自物しとるも自物しとるも自物しとるも
あしとるも自物しとるも自物しとるも自物しとるも
傾斜疆の止風吹中の場もろしとるも自物しとるも
かのしとるも自物しとるも自物しとるも自物しとるも
えなしとるも自物しとるも自物しとるも自物しとるも
あしとるも自物しとるも自物しとるも自物しとるも
橙の根もろしとるも自物しとるも自物しとるも

ふゆふゆと 吟る 世白父句も多句も知る人哉

題梅

知る人 おらへん 神れ梅 千壽

松のつらさ ん 柳 柳 京六

座の艶れ 誰 肩 肩 不才

細工 細工 早 早 不才

物 物 黄 黄 不才

馬 馬 柳 柳 不才

舟 舟 京 京 不才

さ さ 不 不 不才

おもと おもと 舟 舟 京 京 不才

さ さ 舟 舟 京 京 不才

お お 舟 舟 京 京 不才

振 振 の の 舟 舟 京 京 不才

山 山 舟 舟 京 京 不才

山 山 舟 舟 京 京 不才

山 山 舟 舟 京 京 不才

山 山 舟 舟 京 京 不才

山 山 舟 舟 京 京 不才

山 山 舟 舟 京 京 不才

山 山 舟 舟 京 京 不才

かゝるにあらざらん

国記

千春 此記の事由希之浦に在りては

此記の事由希之浦に在りては

此記の事由希之浦に在りては

此記の事由希之浦に在りては

此記の事由希之浦に在りては

此記の事由希之浦に在りては

此記の事由希之浦に在りては

此記の事由希之浦に在りては

此記の事由希之浦に在りては

此記の事由希之浦に在りては

此記の事由希之浦に在りては

此記の事由希之浦に在りては

此記の事由希之浦に在りては

此記の事由希之浦に在りては

此記の事由希之浦に在りては

此記の事由希之浦に在りては

此記の事由希之浦に在りては

此記の事由希之浦に在りては

此記の事由希之浦に在りては

此記の事由希之浦に在りては

此記の事由希之浦に在りては

Handwritten text in a cursive script, likely a letter or document, spanning across the right page and partially onto the left page. The text is dense and continuous.

Handwritten text in a cursive script, possibly a signature or a specific section of the document, located in the upper portion of the left page.

Handwritten text in a cursive script, continuing from the upper section or as a separate entry, located in the lower portion of the left page.

Handwritten text in a cursive script, located on the far left side of the page, possibly a separate note or a continuation of the main text.

吉原七福神

七付目高尾出立部

花笠 太夫の目



花笠 太夫の目
物中 高尾出立部

花笠 太夫の目

七福神

花笠 太夫の目

花笠 太夫の目
物中 高尾出立部

花笠 太夫の目

花笠 太夫の目

花笠 太夫の目

花笠 太夫の目

花笠 太夫の目

花笠 太夫の目

花笠 太夫の目
物中 高尾出立部

花笠 太夫の目

花笠 太夫の目
物中 高尾出立部
花笠 太夫の目
物中 高尾出立部
花笠 太夫の目
物中 高尾出立部
花笠 太夫の目
物中 高尾出立部

花笠 太夫の目
物中 高尾出立部
花笠 太夫の目
物中 高尾出立部
花笠 太夫の目
物中 高尾出立部

Handwritten text on a small slip of paper at the top of the page.

拾肆 (14)



Main body of handwritten text in a cursive style, spanning across the two pages of the manuscript.

Handwritten notes in a cursive script, possibly a different dialect or a specific form of the main script, located at the top of the right page.

Main body of handwritten text in a cursive script, filling most of both pages. The text is written in a fluid, connected style characteristic of historical cursive.

Handwritten notes at the top of the left page, including some numbers and characters, possibly serving as a table of contents or index.

Handwritten text in cursive Japanese style (sōsho) on two pages. The text is dense and continuous across the lines. The right page contains approximately 20 lines of text, while the left page contains approximately 15 lines. The ink is dark and the paper shows signs of age.

八中
吉野
口
三
九



11-15
Hart
Hart

Handwritten text in cursive script, likely a letter or document, covering the left page of the manuscript.

Handwritten text in cursive script, continuing from the left page, covering the right page of the manuscript.

予とて... 改名... 川原... 母... 此... 是... 川原... 母... 此... 是... 川原... 母... 此... 是...

房川原の志

此... 房川原... 志... 此... 房川原... 志...



此... 房川原... 志... 此... 房川原... 志... 此... 房川原... 志... 此... 房川原... 志...

此... 房川原... 志... 此... 房川原... 志... 此... 房川原... 志... 此... 房川原... 志...

編歴の記

三三三

Handwritten Japanese text in cursive style (sōsho), consisting of approximately 25 vertical columns of characters.

鑄屋の記

所由りしあふしは神代高砂川の流を

はらけり



今尚存南玉樓

如き所のまじりたるは

流のあふしは神代高砂川の流を

はらけり

流のあふしは神代高砂川の流を

はらけり

流のあふしは神代高砂川の流を

はらけり

流のあふしは神代高砂川の流を

はらけり

流のあふしは神代高砂川の流を

はらけり

流のあふしは神代高砂川の流を

はらけり

流のあふしは神代高砂川の流を

はらけり

流のあふしは神代高砂川の流を

はらけり

流のあふしは神代高砂川の流を

はらけり

流のあふしは神代高砂川の流を

はらけり

流のあふしは神代高砂川の流を

はらけり

あふしの老葉がしり

大師少師司の



あふしの老葉がしり

あふしの老葉がしり

あふしの老葉がしり

あふしの老葉がしり

あふしの老葉がしり

あふしの老葉がしり

あふしの老葉がしり

あふしの老葉がしり

あふしの老葉がしり

あふしの老葉がしり

あふしの老葉がしり

あふしの老葉がしり

あふしの老葉がしり

あふしの老葉がしり

Handwritten label at the top of the right page.

Main handwritten text on the right page, written in cursive style.

Handwritten label at the top of the left page.

Main handwritten text on the left page, written in cursive style.

文化十と習ふあゝの

うゝの月も懐かぬあゝ

世を補ふもゝあゝあゝ

式真



